

令和2年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

令和3年3月18日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が志を立て個々の将来を見据えて希望進路の実現に向かうとともに、地域創生に寄与する人材育成を推進する。</p> <p>○基礎学力とともに、「創造力」「発想力」「人間性」「礼節」等の人間性向上を図る。</p> <p>○誰もが未経験の時代において「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促し、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p>		<p>・令和2年度2年生の「総合的な探究の時間」はそれぞれの教科の特性を活かした探究活動を検討し、指導計画を作成することができた。令和2年度、それに基づいた活動を活性化していく。</p> <p>・より授業を活性化させるため観点別評価の導入によって生徒に、日々の授業や一つ一つの取組に集中して取り組ませ、達成感を味わわせることに努める。観点別評価の実施については、教科主任会議で検討、一致した指導体制が確立できようとする。</p> <p>・基礎学力の向上のため、1年の最初の段階(オリエンテーション等)で勉強の仕方、進路についての考え方、授業の受け方(ノートの取り方)等を徹底していく必要がある。</p> <p>・模擬試験の積極的な受験を促すとともに、返却データの活用を強化していく。また、入試改革に伴って、授業の内容を含め学習指導方法を改善していくような研修会を早期に持つ。</p> <p>・3年生の就職については、学校紹介を希望する生徒は具体的な方策を実践することで、本人の希望した職種への就職内定率100%を達成できた。進学については、センター試験の受験者が10名と昨年より増加し、少人数ではあるが生徒が最後まで粘る姿勢を見せてくれたことは評価できる。進学補習や就職指導に対する姿勢に関して、「早期からというキーワード」を掲げ進路希望を明確にし、適切な時期に繰り返し情報を伝えることが必要である。</p> <p>・生徒自身の意識の向上により、地域からの苦情は減少した。今後、教員全員が一致してできる生徒指導を目指して、指導内容のポイントを明確に視覚化することを考えていく。また、遅刻とアルバイトの対応方法については議論を重ねていかなければならない。</p> <p>・昇降口のモニターやSNSを活用し、より充実した校内広報を行うことで、生徒による校外への広報にもつなげていく。</p> <p>・生徒のゴミ分別意識を高めることにより削減に効果があったが、さらに削減に努める。</p> <p>・今年度は11月に一斉読書活動を実施し、全校体制で読書啓蒙に努めることができた。令和2年度も継続・発展させ、落ち着いた学習活動の実現にもつなげていきたい。</p>	<p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『あたり前のことをちゃんとさせる・褒める・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に臨んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介』</p> <p>労働環境 『超過勤務削減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上』</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価 中間 最終 総合	成果と課題
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力の向上のための研究と実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	教科主任会議等を通して、新学習指導要領に対応した授業の在り方や評価について研究し、移行に向けた体制づくりを進める。	D B	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末の成績不振者指導をこれまで対象としてきた1年1学期から1.2年1.2学期に拡大し、学びに向き合う機会を確保した。 ・臨時休校をはじめとする出席停止の生徒に対して、課題送付形式を定着させ、学びの保障の一つとなった。 ・手続き等の締切を明確化し、諸届の重要性を理解させるとともに、公平・公正な学校生活の基盤となった。 ・新教育課程の編成にあたり、「生徒にどのような資質や能力を身に付けさせるのか」を焦点化し、課題を共有した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた「学習習慣の定着」に向け、さらに教科や分掌に働きかける必要がある。 ・新教育課程の実施に向けて、実行可能性の検証と、観点別評価の試行など新しい時代への対応が必要である。 ・「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科、分掌、(部活動含む)からの指導が一体となる体制づくりが必要である。 ・コロナ禍における学びの保障を安定化させるために、遠隔授業の実施に向け関係組織と調整を進める必要がある。 ・学校設定科目を中心として、思考力を鍛えるための教科横断的授業(コラボ授業)を実施するなど、授業研究を進める必要がある。
		教科の枠を越えた授業改善の機会を創設し、授業力向上の一助とする。	C B B	
		年度当初に生徒に対する教科オリエンテーションを実施し、「学びに向かう意欲」を喚起する協働体制をつくる。	B B	
特色推進 広報活動 (総務企画 担当)	広報として、特色ある取り組みを中心に中学生・保護者・地域に向けて発信する。 学校内外への充実した広報活動の取り組みを実施する。	中学生・保護者・地域に本校の教育活動が理解されるよう関係分掌と連携を図り、ホームページやパンフレット、学校PR活動等を通して積極的な学校内外への広報活動を行う。	A A	<p>(成果)・SNS等新しい媒体での広報活動を開始した。対外的にはもちろん、在校生への広報の幅が広がった。</p> <p>・感染防止対策を考えた上での学校公開の実施、広報活動を実施することができた。</p> <p>(課題)・広報の媒体が増え、従来のホームページやSNSの更新頻度が遅くなり今後改善の必要がある。</p> <p>・地域やPTAとの積極的な連携につとめる。</p> <p>・本校の教育活動がわかりやすく理解されるよう、より効果的な広報活動の在り方や進め方について今後も検討を進める必要がある。</p>
		中学校や教育連携校、地域やPTAと連携をとり、本校の特色ある授業や学校公開や中学校訪問等の取り組みがより充実したものであるよう事業の円滑な実施を図る。	B B	
生徒指導 (生徒指導部)	<p>学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた身だしなみ指導を中心にあたり前のご指導を全教職員で連携を取りながら行う。</p> <p>褒める機会を充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。</p>	服装や頭髪、化粧、装飾品など身だしなみについて、学校生活にふさわしい身だしなみになるよう粘り強い指導を行う。また、全教職員で統一した指導ができるよう、指導留意点などについて連携を図る。	C C	<p>身だしなみ等に関して、あたり前のご指導を徹底させるため、規則だからと一括りにせず、生徒が心から身だしなみを整える大切さを訴えてきた。対話を中心に指導を行っているが、教員間で温度差のある指導が垣間見え、そこを生徒に見られ有意義な指導とまではいかなかったことが課題となった。教職員が一校校員になっての指導が必要であると感じるとともに、対話だけではなく指導方法も考えていく必要がある。また、統一した指導をするため、分かりやすい指導方法を他教職員に提案していくことが課題だと考える。しかしながら、指導に出して自ら自身の行いを顧みない生徒も少なくないというところも感じられた。こういう生徒を増やしていきたいと思う。</p> <p>盗難等に関しては、事前学習を取り組ませたり進路補習の内容に取り入れた。しかし、事後学習には不十分になった感がある。共通テストの受験者は、担任団の声かけもあり昨年より増加傾向である。自習室の使用は、昨年から引き続き固定の生徒が活用する姿が見られ、今年度は下級生も顔をだしている。学びの基礎診断は事前学習として冊子を活用し、生徒の受験意識を高めることができた。進路別通信は11回発行した。進路に関わる行事の前後に発行し、取り組みを充実させることを意識した。</p> <p>就職関係は、定例で指導講座を開講することで、生徒の就職に対する意識をさらに高めることができた。1次で不調に終わって最後まで頑張り通し内定を勝ち取った者もいる。一方、進学や就職への進路決定者の事後指導が不十分であったせいか、遅刻や身だしなみがよくなかったり、授業中決定者からかめ者もいた。</p> <p>2年生は、学年部と共同で英語と国語の「長期・中期・短期目標を明確にし、ターゲットを絞った自学自習プログラム補完」という新しい取り組みを行った。具体的には長期目標(大学受験)に加えて、中期目標(過去の傾向と対策を踏まえ、2ヶ月後の実力模試に向けて得点力をつける重点学習)や中期目標達成のための短期目標(1日の勉強時間と量の確保を視覚化しワークシートに記録させ提出評価する)と、ターゲットの単元に対する評価問題を作成し、補習時間に評価することで目標に対してPDCAサイクルを確立するためのメソッドを用いて現在も継続中であり、今後とも継続的に実施することの効果を上げられると考えている。この取り組みは例年よりも参加者を維持しており、来年度以降も継続的な学年ごとで連携が必要と思われる。また、専門学校や看護系への取り組みも、継続して実施し、進路希望調査には具体的な学校を書かせる新しい様式を用いて、動機付けの機会を得た。就職希望者には指導を開始しており、次年度への橋渡しができるようにしていく。また、全員に小論文ステップワークシート(洛東オリジナル版)を持たせ、就職から大学進学まで全ての生徒に必要な「考える力」を養成することとした。学年を中心に国語科とも連携しワーキングを取り組ませる。今年度は1年生及び2年生にテストを持たせるのを定着化する予定である。</p> <p>1年生には、科目登録の前ガイダンスを行い、高校3年間の流れを示し、進路を意識して科目選択することの重要性を説いた。学年や教科と連携し補習を実施した。仕事や学習方法に関する短い動画を制作し、LHRで利用しながら進路別説明会に向けて意識づけをするを試みた。</p>
		生徒指導部より定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通安全も含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高め社会性を育成する。また、褒める機会を増やし、生徒も視覚的に体感できるように努力する。	A A	
		いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適切に対処する。	B B B	
進路指導 (進路指導部)	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	B B	<p>3年生に対しては、3学年年部と連携を取り定例の各種講座や説明会を3密を配慮しながら開催し、教科指導も教科と連携し進学補習として定例で開講することで指導することができた。小論文対策として、3回小論文模試を実施した。とくに、指定校入試生や総合型選抜生徒に対しては、個別指導を行った。</p> <p>進学模試試験に関しては、事前学習を取り組ませたり進路補習の内容に取り入れた。しかし、事後学習には不十分になった感がある。共通テストの受験者は、担任団の声かけもあり昨年より増加傾向である。自習室の使用は、昨年から引き続き固定の生徒が活用する姿が見られ、今年度は下級生も顔をだしている。学びの基礎診断は事前学習として冊子を活用し、生徒の受験意識を高めることができた。進路別通信は11回発行した。進路に関わる行事の前後に発行し、取り組みを充実させることを意識した。</p> <p>就職関係は、定例で指導講座を開講することで、生徒の就職に対する意識をさらに高めることができた。1次で不調に終わって最後まで頑張り通し内定を勝ち取った者もいる。一方、進学や就職への進路決定者の事後指導が不十分であったせいか、遅刻や身だしなみがよくなかったり、授業中決定者からかめ者もいた。</p> <p>2年生は、学年部と共同で英語と国語の「長期・中期・短期目標を明確にし、ターゲットを絞った自学自習プログラム補完」という新しい取り組みを行った。具体的には長期目標(大学受験)に加えて、中期目標(過去の傾向と対策を踏まえ、2ヶ月後の実力模試に向けて得点力をつける重点学習)や中期目標達成のための短期目標(1日の勉強時間と量の確保を視覚化しワークシートに記録させ提出評価する)と、ターゲットの単元に対する評価問題を作成し、補習時間に評価することで目標に対してPDCAサイクルを確立するためのメソッドを用いて現在も継続中であり、今後とも継続的に実施することの効果を上げられると考えている。この取り組みは例年よりも参加者を維持しており、来年度以降も継続的な学年ごとで連携が必要と思われる。また、専門学校や看護系への取り組みも、継続して実施し、進路希望調査には具体的な学校を書かせる新しい様式を用いて、動機付けの機会を得た。就職希望者には指導を開始しており、次年度への橋渡しができるようにしていく。また、全員に小論文ステップワークシート(洛東オリジナル版)を持たせ、就職から大学進学まで全ての生徒に必要な「考える力」を養成することとした。学年を中心に国語科とも連携しワーキングを取り組ませる。今年度は1年生及び2年生にテストを持たせるのを定着化する予定である。</p> <p>1年生には、科目登録の前ガイダンスを行い、高校3年間の流れを示し、進路を意識して科目選択することの重要性を説いた。学年や教科と連携し補習を実施した。仕事や学習方法に関する短い動画を制作し、LHRで利用しながら進路別説明会に向けて意識づけをするを試みた。</p>
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。また、小論文対策として説明会及び小論文模試を設定し、個別指導へつなげる。	B B	
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。	C B	
		大学入試改革に向けて情報収集し、入試の傾向や対策について進路別通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	B B	
		就職指導は、2年生の秋から実施し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に合った指導を学年部と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B B	
		学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	B B	
進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力のスキルを身につけるよう指導する。さらに実社会で対応できるようにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつける。	B B		
	面接指導を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、正しい言葉遣いでの受け答えができるように粘り強く指導する。また、社会人の面接官を招聘した実践的な模擬面接を設定する。さらに、内定指導を充実させる。	B B		
	生徒の進路希望を早期に把握し、長期的な学習・受験計画の作成を促す。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にすることを取り組みや進学補習・学習合宿などを充実したものにする。	B B		
ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	進路別・分野別説明会の実施や進路別通信の発行などにより、適切かつ最新の情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め希望進路の実現に向け具体的な見通しを持たせる。	B B		
	学習支援サービスの運用・活用方法を検討し、電子黒板などのICT教材の活用を推進する。	C C		
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	<p>生徒を理解し、様々な角度から支援の充実を図る。</p> <p>環境問題と環境美化に対する意識の向上を図り、自ら判断し行動できるように教職員と共に考え取り組む。</p>	様々な課題を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザーの支援と協力を得て、より良い支援方法を模索し実践する。	C C	<p>○様々な課題を抱える生徒への対応についてはスクールカウンセラーと担任と情報共有や連携などでできていたが、まなび・生活アドバイザーとの連携・協力関係は不十分であった。</p> <p>・学校としての位置づけや役割が明確にすることが連携を図るための方法を検討する必要がある。</p> <p>○ゴミの削減については取り組みが不十分であったが、美化週間でゴミの削減をテーマに美化委員によるポスター作成やゴミステーションにおいて分別作業を行ったことは、次年度に繋がる良いきっかけとなった。</p> <p>○美化活動をする上で清掃用具の購入が必要だが、予算の関係上難しい掃除担当者により負担を掛けている。</p> <p>・施設の老朽化に伴い修繕などが必要だが、保健部だけでは対応が難しい。</p>
		環境問題に対する意識向上を図るため、ゴミの分別や排出量の削減を進める。目標として10%削減を目指す。	B B B	
		施設の老朽化に伴い、安全確認や汚れの早期改善を進めるため、普段の清掃に加え重点目標を定めた清掃活動を定期的に計画し実施する。	C B	
読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚担当)	<p>図書館よりと図書委員会より定期的に(あわせて年9回)に発行し、教室掲示またはClassiiにより、生徒におすすめ図書などの情報を提示する。</p> <p>生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。</p>	図書館と授業との連携状況を報告して、教科での図書資料活用を促進する。	B B	<p>図書館より「サビエンティア」を計6回、図書委員会より「百花繚乱」を計5回発行した。今年度は内容によって、教室掲示や校内掲示、Classii配信を複数選択して情報提供を行った。また、おすすめ図書を掲載した「サビエンティア」の発行も行うことができた。次年度も定期的な情報発信を進めるとともに、図書委員による内容充実も図ってきたい。</p> <p>授業での利用については、コロナ対策のため3名までしか着席できない現状が続いている。さらに、返却図書の一定期間取り置きを行った。辞書と生徒を紐付けしての貸出を行っている。そこで、利用促進のため、教科としてまとめて関連図書を借りられるようにサービス提供を行った。来年度以降も継続していく。</p> <p>校内プロジェクトの使用について研修会を実施した。来年度も、情報教育推進会議にて活用事例やICT環境について共有して、校内全体のICT活用促進につなげていきたい。</p>
		進路指導部全体で校内ICT活用について考え、校内ICTの操作マニュアルを作成して、それについての研修会を少なくとも1回は実施する。	C B	
		施設・設備の維持・安全管理をはかる。	B B	
教育環境 整備 (事務部)	<p>特色ある教育活動や広報活動等の実施のための学校予算の効果的執行を行う。</p>	「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対処を行う。	B B	<p>校内で対応できる危険箇所については早期対応することができた。校内対応できない危険箇所については順次業者に依頼し修理を行った。長年の懸案事項にも対応することができた。</p> <p>新型コロナウイルス対策や年度当初の休校措置・交替制勤務で計画的な予算執行が困難になってしまった。教科や分掌からの要望を受けたものの、早期に配分をすることはできなかったが、概ね要望に応じることができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を優先するため節電・節水等に取り組むことはできなかったが、不必要な箇所の消灯を心がけた。また、新型コロナウイルス感染症対策のためにトイレに自動水栓を設置したことで、水道栓の閉め忘れがなくなり節水の効果はあった。</p>
		各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。各分掌教科間での備品の共有など教科分掌の枠を超えた使用について進める。	D C	
		節電等を呼びかけ、光熱水費の削減に取り組む。	C B	
第1学年部	一人一人が洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、ルールを守って行動させる。また、進路実現の意識を持たせながら学習習慣の定着を図る。	時間・身だしなみ・携帯電話のルールについて日常的な声かけを大切に、関係分掌や保護者と連携して段階的に指導する。	B B	<p>2学期に学年集会を開催し、ルールを守る大切さや、集団中での行動について指導し、できていない生徒は学年担任団で個別指導を行った。その結果、身だしなみについては改善がみられ、落ち着いた状態で授業に取り組むことができた。遅刻指導については他分掌と連携して指導を行い、改善がみられた。</p> <p>休校及び時差登校中のSHRで計算問題や新聞を用いたワークシートを使った人権学習など朝学習として取り組ませることができた。</p> <p>LHRIにおいて進路指導部と連携し、模擬試験の説明や進路決定に向けた意識づけの動画視聴を行った。</p> <p>学校祭において、委員や係が主体的に活動することができた。部活動については休校の影響等で加入率は低くなったが、入部した生徒は意欲的に活動している。清掃活動においては日々の清掃や大掃除において積極的に活動することができた。</p>
		SHR等を利用し、読んだり、考えたりする時間をつくり、考える力をつけさせる。	B B	
		学校行事・清掃活動・部活動等への主体的な参加を促す。	C B	
第2学年部	希望進路を早期に決定させ、希望進路ごとの進路実現に向けた取り組みを今年度中に開始して、必要とされる能力を向上させる。	・年度当初の学年オリエンテーションにおいて、進路実現に向けた今後2年間および今年度のスケジュールを生徒に周知し、生徒に進路実現に向けた見通しを持たせる。	C B B	<p>・年度当初の学年オリエンテーションや進路指導部と連携した進路別ガイダンス、進路指導部通信などを通して、生徒に進路実現に向けた見通しを持たせることができた。</p> <p>・夏季三者面談を通して保護者に進路選択および選択後の取り組みについて周知することができた。また、夏季休業明け、冬季休業明けに進路希望調査を実施することにより、長期休業中に希望進路についてじっくり考えてもらう機会をつくることができた。</p> <p>・進路指導部と連携して開始した進学補習は、学年部として出欠把握や出席者への指導を行い、学習習慣の定着に一定程度つながったと考える。ただし、基礎学力の不足からあきらめてしまい早期に離脱した生徒が多数いる。入学当初から、基礎学力、基礎的な学習習慣を定着させるための方策が必要であると考える。</p> <p>・昨年度に比べて身だしなみがかなり乱れている。繰り返し声かけはしているものの、身だしなみを整える意義は生徒に浸透しているとは言えず、カード指導を受けるのが面倒だから従うという状況である。</p> <p>・昨年度に比べて遅刻が大幅に増加した。遅刻する生徒が固定化してきており、3年次には進路実現という観点からこれらの生徒にせまっていかなければならない。</p>
		・夏季休業明けに進路希望調査を実施し、この時点で未定者が出ないように指導する。このために、夏季三者面談において保護者に進路選択および選択後の取り組みについて十分周知する。		
		・大学(四大、短大)進学希望者について、学年部として補習への出欠状況の把握を行い、大学入試(一般選抜)に向けた学習習慣の定着を図る。		
第3学年部	生徒全員が納得のいく進路実現を達成させる。これまで積み重ねてきた指導を元、他分掌とも連携し、卒業後も持続可能な目標を持たせる。	生徒一人一人の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、進路決定させる。漢字検定を全員受験させる事も含め、基礎学力の充実、応用力の養成に尽力させる。	B B	<p>漢字検定2級を全員に受験させることが出来た。進路指導部との連携により、生徒一人一人の進路希望を概ね達成させることが出来た。また、進路決定後についても、学力伸長に取り組ませることが出来た。</p> <p>学校祭において心構えや態度に不十分な点があった。しかし、楽しんで主体的に取り組む姿勢や、皆で協力することについては大きな成果があった。地域貢献について山科駅周辺の清掃活動を実施することが出来た。また、美化活動に自主的に取り組み、意識を高めることが出来た。</p> <p>身だしなみについては、場面に合った指導を行って来たが、日々の定着には繋がらず、課題が残る。遅刻を減らすことが出来なかったのが残念である。</p>
		学校におけるあらゆる教育活動を通じ、学校行事やホームルーム、部活動を通じて、自主性・協調性を養う指導を行う。また、地域貢献のできるボランティア活動に取り組ませる。	B B	
		身だしなみを整えることの重要性を意識させる。進路指導部や生徒指導部と連携しながら、学年全員に定着させる。	C C	

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>・中間評価でDであったもののうち、評価までに目標の教育活動の取り組みがなかったことなどが原因のものがある。次年度は改善の余地があるだろう。</p> <p>・年度が替わり校長や教職員が替わっても、成果が上がってきたこと、特色として定着してきたことなどは次年度以降、継続して取り組んでいく体制を整えてほしい。</p> <p>・地域のつづりの中に洛東生が関わっていていることはありがたい。今後とも環境教育をはじめ、地域とコラボすることをお互いにメリットがある形を継続してほしい。</p> <p>・洛東高校を志願する生徒を増やすためには、進学の分野で著名な大学に何人合格したなどの情報もアピールしていくべき。中学や塾との点については判断の基準としてわかりやすいだろうから。</p>	<p>・したる理由もなく登校しなくなった。通学制に転学したがる生徒については、携帯など自分の世界の中で自分だけで勝手に判断する生き方が増えたという生活環境や生き方の変化の問題が大きいのではないかと。</p> <p>・洛東高校は、自然に恵まれたところにあるので地域や小学校とともに、環境教育に関わることを重視してほしい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・新教育課程の実施に向け、本校の特色と実績を生かした開かれたカリキュラムになるよう修正を加えていく。また、観点別評価については過去何らかの研修を行ったにもかかわらず進んでいないことを踏まえ、完全実施に向けての方策を練る。</p> <p>・学習習慣の定着、進路希望の早期決定と実現、基本的学習習慣(主に進路、家庭学習、授業)の取り組み等について、教務部、進路指導部、生徒指導部が中心となって相互に関連づけを行い、具体的にわかりやすい指導方法を学年に提示していく。</p> <p>・進路実績のうち、大学進学を希望する生徒にしっかりと目標を持たせ目標に向かって努力する姿勢を身に付けさせるために、入学当初からの指導・個別の指導を進路指導部・学年部が協力して行う。</p>	